

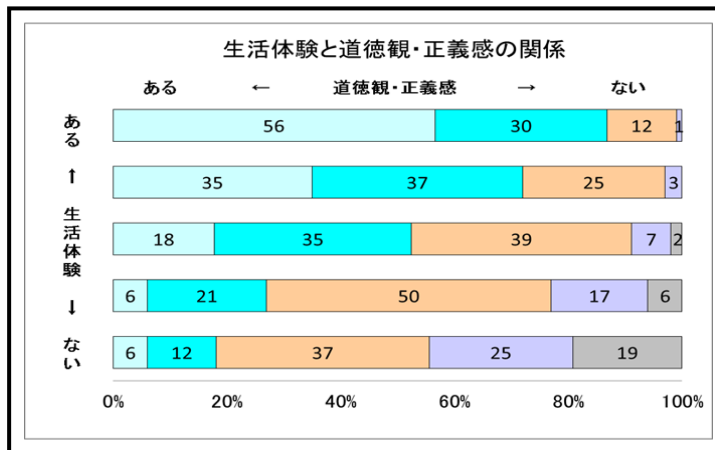
「豊かな心」の育成（体験活動の充実）

近年、核家族化や都市化の進行といったライフスタイルや社会状況の変化を背景に、家庭や地域の教育力の低下、規範意識や人間関係の希薄化、問題行動の多発等、子供たちをめぐる様々な課題が生じている。子供たちに豊かな人間性や社会性を育むためには、自然や社会に接し、生きること、働くことの尊さ等を実感させる機会をもたせることが重要である。そのため、学校・家庭・地域がそれぞれの役割において体験活動を充実させていくことが求められている。

1 学校教育における体験活動の必要性

小・中学校学習指導要領（平成29年）では、児童生徒の道徳性を育成するために、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験活動を積極的に取り入れることが求められている。また、体験活動の実施に当たっては、児童生徒の発達段階を踏まえた指導を重視することが重要であり、小学校では自然の中での集団宿泊活動、中学校では勤労観・職業観を育む職場体験活動、高等学校では自分の将来展望や社会における自分の役割について考えを深める奉仕体験活動や就業体験活動等を重点的に推進することを求めている。

平成24年度に国立青少年教育振興機構が実施した「青少年の体験活動等に関する実態調査」では、生活体験が豊富な子供ほど道徳観や正義感に富む子供が多いという結果が報告されている。様々な体験は、子供の健全な発達にとって欠かせないものであり、学校内外を通じて体験活動の機会を充実させていくことが必要である。

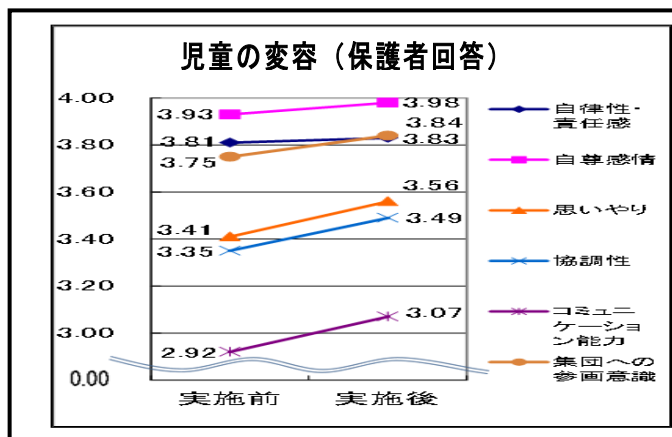


生活体験と道徳観・正義感の関係
「青少年の体験活動等に関する実態調査 H24」より

2 学校における体験活動の推進

(1) 集団宿泊活動の意義

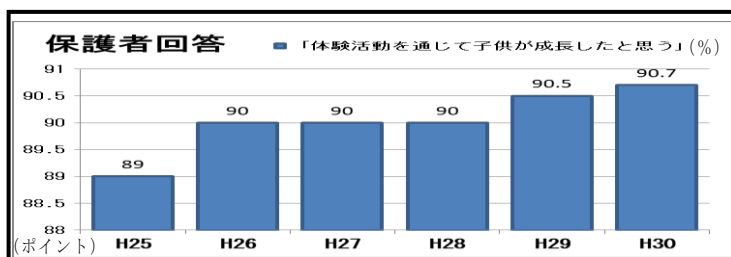
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編では、「いじめの未然防止等や不登校児童の積極的態度の醸成や自己肯定感の向上等の高い教育効果が期待される」とし、「学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ、一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことが望まれる」とされている。



集団宿泊活動の教育効果

『山・海・島』体験活動ステップアップ事業（調査結果）H30

広島県が平成25年度から実施している「山・海・島」体験活動の実施校を対象に行った調査では、集団宿泊活動が児童の道徳性の向上など豊かな心の育成に効果があるとの結果が得られている。



集団宿泊活動の教育効果

『「山・海・島」体験活動ステップアップ事業(調査結果)H25~H30』

(2) 効果的な体験活動の実施

体験活動は効果的であるが、ただ体験させるだけでは、教育目標を達成することはできない。教育目標を達成するための体験活動は、次の点に留意することが必要である。

ア 教育目標や各教科等の目標の達成に資するよう、どのような子供の資質や能力の向上を図り、どのようなことを学ばせるのか等、体験活動に期待するねらいを明らかにする。

イ 教育課程上のどの時間で実施するのか、位置付けを明確にする。

ウ 効果を高めるために、日常とは異なる生活体験や社会奉仕体験、交流体験などを積極的に取り入れる。

エ 協力し合わなければできないような課題性をもたせたプログラムにする。

オ 「体験→振り返り→活用」を繰り返す「学習のサイクル」を用いた指導計画を作成することにより、学びを深化、定着させる。

カ 体験活動と教科・総合的な学習の時間などを関連付け、体験活動を生かすための事前・事後の指導を充実させる。

事前・ねらいや意義を十分理解させ、活動について調べたり準備したりすることによって、意欲をもって主体的に活動できるようにする。

当日・生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解させることを重視する。

- ・児童同士の口論・喧嘩など一時的な感情の衝突が起こった場合にも、その機会を捉えて相互理解していくための指導を行う。

- ・問題が起こった際にも、まず児童が自分で考え解決できるように、自発的・自治的な活動の指導を重視する。

事後・体験活動を通して感じたり気付いたりしたことなどを振り返り、まとめたり発表し合ったりするなどの言語活動を通して体験を共有化し、成長を実感できるようにする。

キ 豊かな人間性や社会性を育み、心の教育の充実を図るために、「特別の教科 道徳」とのつながりや関連を工夫する。

ク 安全確保のための事前調査や緊急時の対応方法等、準備に万全を期する。

ケ 校内の推進体制を整備するとともに、保護者や地域関係者等から体験活動に対する理解や幅広い支援が得られる体制づくりに努める。